

宮島邦彰先生

(抄 録)

【上顎劣成長に対する対応 A to Z】

歯科医学の進歩は日進月歩ですね。矯正の分野も新たな考え方や術式が開発され、大きく進歩しています。

今回は下顎前突の治療に関して乳歯列期からアダルトまで最近の知見をお知らせします。成長期は従来、上顎劣成長の症例は数年間の前方牽引がグローバルスタンダードでしたが、急速拡大縮小を毎週繰り返しながらの 400g の 3 級ゴムを使う 3-6 ヶ月の治療法が有効です。さらにこの方法で下顎が後退してしまうようならバーティカルチンキャップを用います。アメリカで先月出版された 3 級不正咬合の新たなコンセプトという本も私が contributor として載っていますので永久歯列の治療法も含めて紹介します。

アンカースクリューが一般的になった現在、私の開発したセクショナルディスタライザーは、特に有効で治療期間が圧倒的に短縮し審美的です。

さらに今回は MBS を効率よく進めるワイヤーのデザインとベンディングの実習も行います。

これにより日常臨床がさらにスムーズになり高レベルの仕上がりになります。